別紙

クビアカツヤカミキリ（*Aromia bungii*）について

１．生態等について

【　分　類　】コウチュウ目　ハムシ上科　カミキリムシ科

【　学　名　】*Aromia bungii*

【　和　名　】「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」では、“クビアカツヤカミキリ（クロジャコウカミキリ）”を使用している。一部では、クロジャコウカミキリと呼称している場合もあるが、原則としてクビアカツヤカミキリを使用している。

【原　産　地】中国、台湾、朝鮮半島、ベトナム北部など

【体長・体色】成虫の体長は、約 2.5～４センチ。全体的に光沢のある黒色で胸部（首部）が赤い。海外では、胸部（首部）が黒い個体も確認されている。

【被害・生態】幼虫が生木に食入・加害することで樹木を衰弱させる。幼虫が生木の内部を摂食（その際、フラス（木屑等）を排出）し、樹木内で２～３年かけて成長、蛹となり、我が国の発生地では６月中旬～８月上旬頃に成虫となって樹木の外に出る。雌成虫は、交尾後、幹や主枝の樹皮の割れ目に産卵する（８～９日後にふ化）。

【 寄主植物 】サクラ、セイヨウスモモ、ウメ、モモ、カキ、オリーブ、ハコヤナギ、ザクロ、コナラ、ヤナギなど

【　写　真　】



成虫（植物防疫所原図）



枝にたまったフラス（植物防疫所原図）



幼虫による食害（植物防疫所原図）

２．発生状況

本種の成虫又は本種が疑われるフラス（木屑等）が確認された地域は以下のとおり（平成 29 年１月時点）。

発生確認年	都道府県	主な確認場所
平成 28 年	栃木県	
	群馬県	公園・街路樹・神社仏閣のサクラ
	埼玉県	用水路沿いのサクラ
	東京都	公共施設のサクラ
	愛知県	公共施設のサクラ、民家のウメ
	大阪府	公園のサクラ、ウメ園地
	徳島県	公園神社のサクラ、果樹園のモモ・ウメ・スモモ

３．調査・防除方法

通常の管理の範囲内でフラスが確認された場合、本種の発生が疑われるため、フラス確認後は、成虫の発生時期（６～８月）に当該樹木を中心に成虫の有無を調査する。

成虫を見つけた場合は捕殺するとともに羽化した成虫の分散防止及び新たな産卵を防止するため、羽化期から成虫の産卵時期（６～８月）に、ネット（防鳥ネットとして利用されているもので容易に切れないもの、目開き４㎜以下）等を寄生木と疑われる樹木の樹幹に巻き付ける。幹にぴったりと巻き付けると幼虫や成虫が食い破るため、幹に密着させないように巻く。ネットを何重にも巻くと内側が見えづらくなるとともに、

内部が蒸れて樹が弱るため、１周から１周半程度にする。ネットを放置すると羽化した成虫が隙間から逃げるため、定期的に見回って成虫を捕殺する。

また、複数の食入孔や脱出口が確認された樹木については、完全な駆除は困難であるため伐倒処理をすることが望ましい。伐採樹木及び枯死した樹木を放置したり、安易に移動させることは、当該種の拡散による被害の拡大につながるので、伐採樹木等については放置せず、早期に焼却又はチップ化する。伐採作業及び伐採した樹木の移動はなるべく成虫発生時期（６月～８月上旬）を避け、やむを得ず上記の期間に移動させる場合は成虫が逃げ出さないように注意する。また、伐採後に残った根（切り株）に穴が開いている場合は本種の幼虫が内部に残っている可能性があるため、ビニールシート等で覆い、成虫が脱出しないようにする。

なお、当該種による加害が進むと、落枝、倒木等による人的被害が発生するおそれがあるため、その観点からも注意が必要。



ネットを樹幹に巻き付けている様子

【登録農薬】

・樹木類のカミキリムシ類：MEP 乳剤

・果樹類のカミキリムシ類：昆虫寄生性糸状菌製剤